

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 77

2014年5月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、富木政弘先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第35回研究会」のご案内
2. 「第7回研究・開発成果発表会」のご案内
3. 第1回 事業化セミナー
「亜臨界アミノ酸液肥化事業の展望と地域間連携」のご案内
4. 「第8回 電子回路設計者向け技術セミナー」のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第35回研究会」のご案内

日時 2014年 5月 30日（金）13：25～17：00
場所 静岡市産学交流センターB-nest 7F 大会議室
主催 静岡大学食品・生物産業創出拠点
後援 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

■講演

主題：グローバル化の中の食品・生物産業
13:30～15:00

1. 「グローバル化と感染症～レクチンの抗ウィルス活性～」
一般財団法人杉山産業化学研究所 常務理事・所長 徳田正弘 氏

15:20～16:50
2. 「胎内栄養環境と生活習慣病－成人病胎児期発症起源説の視点から－」
早稲田大学総合研究機構研究院 教授 医学博士 福岡秀興 氏

■懇親会

17：30～19：00 ホテルシティオ静岡

<研究会参加費>

- *会員・後援団体会員及び学生…無料
 - *会員外…1,000円（当日、受付にてお願いします。）
- 但し、懇親会費は、別途徴収させていただきます。
- *会員（学内・学外共） 1名2,000円
 - *会員外 1名5,000円

<聴講申込み及びお問合せ先>

静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 8 3 6
TEL 054-238-4631 FAX 054-238-3018
Email oshirao[at]ipc.shizuoka.ac.jp

2. 「第7回研究・開発成果発表会」のご案内

日時 2014年 6月 6日（金）13：00～17：00
会場 静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター

主催
共催
内容
(浜松市北区新都田1-3-3)
浜松工業技術支援センター、浜松センター協議会
静岡大学ほか

【静岡大学からの発表】

- 「精密農業・防災のための小型マルチモーダルセンサに関する研究」
工学研究科電気電子工学専攻 准教授 二川 雅登

- 「金属薄板の成形性に関する研究」
工学研究科機械工学専攻 准教授 吉田 健吾

参加費 無料

詳細/申込先 http://www.iri.pref.shizuoka.jp/news/news_event.php?U=1672

問合せ先 浜松工業技術支援センター
技術支援担当(吉岡、小杉、中川)
TEL 053-428-4152
E-mail hamamatsu[at]iri.pref.shizuoka.jp

3. 第1回 事業化セミナー

「亜臨界アミノ酸液肥化事業の展望と地域間連携」のご案内

公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構では、地域連携を目的にした事業化セミナー「亜臨界アミノ酸液肥化事業の展望と地域間連携」を初めて浜松商工会議所会館で開催致します。

亜臨界アミノ酸液肥化事業等について、NPO法人 北海道資源循環研究所の理事長を講師に招き、基調講演頂きます。また、個別相談会も実施致しますので、事前にご連絡下さい。対象は異業分野種参入をお考えの企業や亜臨界アミノ酸液肥にご興味のある農家や関連機関の方々であり、専門知識や地域連携へのアイデア等が得られる内容です。

日時 2014年 5月 27日(火) 10:00~11:30 (受付開始 9:50)

会場 浜松商工会議所会館 8階 セミナー室

対象 異業種分野参入をお考えの企業、農家、関連機関の皆様

参加 無料

定員 30名 ※お早めにお申し込みください。

詳細・申込 <http://www.haipro.jp/news/?p=147>

主催 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構

共催 静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター、浜松商工会議所

協賛 特定非営利活動法人 北海道資源循環研究所

問合せ先 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構

担当：田中 TEL：053-471-0777

4. 「第8回 電子回路設計者向け技術セミナー」のご案内

今回は『基板設計で抑えておきたいEMCノイズ対策編』を開催します。

今までの技術セミナー参加者からご要望の多いマイコンの低ノイズ実装対策等について、半導体サプライヤ各社と基板設計支援会社から講師を招き、基調講演とEMCノイズに対する有効な対策を解説頂きます。

また、パネルディスカッションや個別相談会も実施いたします。新人から中堅エンジニアを対象としており、専門知識が得られる内容となっておりますので是非この機会に参加登録をお願いします。

尚、定員になり次第、申込みを締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込みください。

日時 2014年 6月 6日(金) 13:10~16:30 (受付/デモ展示開始 13:00)
会場 アクトシティ浜松 研修交流センター 62研修交流室
対象 回路設計エンジニア
参加 無料
定員 60名 ※お早めにお申し込みください。
詳細・申込 <http://www.haipro.jp/news/?p=113>
主催 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構
共催 静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター、浜松商工会議所
静岡大学 情報学部 組込みシステムアーキテクト研究所
協賛 株式会社アルティメイトテクノロジズ、スパンション社、
ルネサスエレクトロニクス株式会社、他
問合せ先 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構
担当：田中 TEL：053-471-0777

《 みんなのコラム -71- 》

記：工学研究科電気電子工学専攻 助教 富木政弘

本学に入学してちょうど20年目を迎えた。入学の翌年に改組があり、最後の電子工学科の学年となった年でもある。その後、本学理工学研究科・電子科学研究科を修了し、教務員として着任し現在に至っている。学部4年時に研究室に配属されて以降、高分子を用いた光導波路に関する研究を一貫して行っている。恩師が産学連携を推進する立場にあり、研究室に企業からの研究員が日常的にいる環境であった。今思えば、研究員の方々と休憩時間に会話した事柄がその後の研究のヒントになったことが多々あり、ある意味恵まれた環境であったと言える。

これまで行ってきた企業との共同研究の多くはその企業の持つ独自の材料を何かに使えないかという相談から始まっている。研究室の基盤技術が光学であるため、光学的特性評価が主となるが、往々にして優れた性質は得られず、何かしらの欠点を有していることが多い。しかし欠点は見方を変えれば利点となる。例えば紫外線により変色しやすい性質はフォトリソグラフィ加工に適用でき、ガスが浸透しやすいため性質が不安定な材料はガスセンサへの応用が期待できる。残念ながら実用化され事業として活用された成果は極僅かである。その数少ない成功例は技術の高さが要因ではなく、コスト性に優れ、需要に恵まれていたことが事業化できた要因であった。

現在、8拠点からなる車載光ネットワークの実現に向けたプロジェクトに携わっており、10年間のプロジェクトのちょうど半分の5年目を迎え、実用化に向けて最終的な形状を議論する段階である。今後は量産性や信頼性の評価のため、企業がメインとなっていくであろう。このプロジェクトが成功し、5年後10年後に自動車に光ネットワークが搭載されていることを願い、今後も研究開発に邁進していきたい所存である。

《 編集後記 》

4月9日~11日に台北で、AUTM Asia2014が開催されました。

AUTM Asiaは、大学技術管理者協会（AUTM）が主催する会議で、アジアを中心とした学術研究機関や産業界の技術移転関係者が集まり、ベンチャートレンドやライセンス交渉、技術移転の最新動向などに関する議論や情報交換を行います。

今年もバイオテクノロジーと農業に関する話題が多くありましたが、中国の大学知財活用強化へのポリシー転換は興味深い報告でした。中国は現在、米国に次ぐGDP2位の国ですが、毎年7-8%のGDP成長を維持し、2020年までに2010年の倍のGDPを達成するために、2020年までに世界を

リードするイノベーション創出国となるべく、研究開発、技術移転、知財戦略に国家的に取り組んでいくようです。これを脅威と捉えるか、チャンスと捉えるかは私たち次第だと思いますが・・・

イノベーションによる価値創造戦略、そして大学技術による社会的・経済的インパクト等産学連携や技術移転に従事する皆様には参考になる話題も多くあり、これらについては改めてご紹介したいと思います。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構
編集：原典子
発行責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2014
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved